

PROLOGUE

デニスとの遭遇： 英語教育変革の予感

Dennis the Menace (「デニス・ザ・メナス」) は、5 歳児デニスを主人公とするアメリカ発の一コマ漫画です。1951 年、ハंक・ケッチャム (Hank Ketcham) 氏が世に送り出し、60 年以上を経た今日も世界各国の新聞に連載が続いています。その数は 2014 年現在、世界 48 か国、1000 紙以上、19 言語のバージョンに及びます。

“menace(メナス)”は「脅威の種、やっかい者」を意味します。Dennis the Menace では、一作品ごとにデニスの menace ぶりが巧妙に描かれます。媒体役は、一コマの絵とその下側につく短いセリフのみです。

私がデニスに出会ったのは、1990 年代はじめ、アメリカ大学院留学を開始して間もない頃のことでした。当時、購読していたワシントンポスト紙に Dennis the Menace が連載されていました。

はじめは気に留めることもなかったのですが、次第に心惹かれるようになりました。理屈抜きで楽しみ、読むほどに面白さが増していきます。英語で苦労していた私にとって、キレのあ

る英語をズバリと発するデニスは何とも頼もしい存在でした。

同時に、デニスを一人でも多くの日本人に紹介したいという思いが芽生えました。将来、Dennis the Menaceが日本の英語教育に大なり小なり風穴を開けてくれるかもしれないという予感が働いたのです。

私は毎日せっせとデニスの一コマ漫画を切り抜き、何冊ものスクラップ・ブックを作りました。アメリカ滞在およそ6年を経た後、1998年に現在の勤務校に着任し、以来、Dennis the Menaceを教材として使用する機会に恵まれています。

デニスの反響は想像を超えるものがあって感じています。受講生がこぞってデニスに引き込まれていく様子を何年にもわたり見届けてきました。学生からのデニス評では、毎回以下のような声があがります。

「もっと早くデニスに会いたかった」

「たった一枚の絵なのにストーリーが深い」

「英語嫌いな私もこれなら楽しめる」

「デニスの頭のよさに脱帽」

デニスの英語は、私たち大人の心を遠く過ぎ去った子供時代に、無理なく自然に引き寄せてくれるパワーがあります。

私は、その不思議なパワーを「デニス・ミラクル」と呼んでいます。「デニス・ワールド」に飛び交う「血の通った英語」を読み解くことで、あなたも「デニス・ミラクル」をきっと体

験できるはずです。

本書を通して、デニスのはちきれんばかりの魅力、さらには「デニス・ワールド」の底知れぬ可能性をお伝えできたらと願っています。

なお、私のかつての同僚、アメリカ・ミズーリ州在住のマーク・フランク (Mark Frank) 氏が登場し、作品解説の手助けをしてくれます。アメリカ人の目線から見えてくるデニス像にもご注目ください。



CONTENTS

| | |
|-------------------------------|-----|
| PROLOGUE | 7 |
| デニスとの遭遇：英語教育変革の予感 | |
| CHAPTER 1 | 13 |
| デニスの創造者たち：デニス誕生秘話とケッチャム氏の後継者 | |
| CHAPTER 2 | 17 |
| デニス鑑賞の手引き：スロー・ラーニングによる一発学習 | |
| CHAPTER 3 | 20 |
| デニス・ワールドのキャスト：個性と個性が織りなす日常ドラマ | |
| CHAPTER 4 | 66 |
| デニス作品読解に挑戦：立体思考で「アハ・モーメント」へ | |
| CHAPTER 5 | 104 |
| 学生が語るデニス評：デニスの底知れぬ魅力 | |
| EPILOGUE | 118 |
| 言語習得の鍵：「ありのまま」がもたらすミラクル | |